

口は健康のもと Vol.81 口の中の「がん」その2

早期発見に定期診検診を

口腔がんを引き起すリスクには、どんなものがあるのでしょうか。

財団法人がん研究振興財団にこんな調査結果があります。

たばこを吸う人は吸わない人の約7倍、飲酒の習慣がある人は、ない人に比べて約6倍も口腔がんが発生する。

口の中の特殊な環境もリスクのひとつとされています。それは体の中で一番硬い歯と最も柔らかく傷つきやすい粘膜が共存していることです。入れ歯や金属の詰め物などが入っていると、舌や頬の粘膜への刺激が増します。最も悪いのは合わなくなった入れ歯や虫歯を放っておき、粘膜を傷つけてしまうことです。これが口腔がんになる危険性を高めることとなります。

口腔がんを予防するためには、たばこやお酒を控え、バランスのとれた食事を慌てずにゆっくりと噛んで食べることです。歯磨きやうがいなどで口の中を清潔に保ち、合わない入れ歯や虫歯はできるだけ早く治すように心がけましょう。そして歯科検診を定期的に行うことが早期発見・早期治療につながる最も有効な予防法でしょう。

奥羽大学歯学部附属病院では口腔外科相談窓口を設けています。少しでも気になることがありましたら、お気軽にご相談ください。



奥羽大学歯学部附属病院
口腔外科 教授 高田 訓

